

市内に設置された浜松マナー灰皿が利用者によって汚されたままの様子を、通行者が市役所、地元の新聞社に街の環境悪化として意見を寄せた。



浜松マナー灰皿 設置から撤去までの道のりを ふり返って

加藤一晴 ことをタバコから守る会・代表

2015年2月某日、
浜松市中区鍛冶町路上にて

目の前に佇む浜松マナー灰皿を感慨深げに眺めている。春の訪れが近いのに、遠州地方独特のからっ風が容赦なく吹き付け、寒々しさを醸し出している。ここに移設されるまでのさまざまな遍歴が思い出される。

昨年の秋までは街路樹には、多くの棕鳥の騒がしい囁りがあつたが、今はその気配もない。人通りは多いのに、立ち止まる人はほぼ皆無である。一時はＪＲ浜松駅の南口北口で脚光を浴びた、メッセージボード付き灰皿が、たった8年満たずして市

民の前から、姿を消す羽目になろうとは、誰が想像したのだろうか。

浜松マナー灰皿設置！

2008年9月19日、ベールに包まれた浜松マナー灰皿が2カ所設置された。地元紙の「これで喫煙マナーは完璧だ！」的なコメントを鮮明に覚えている。タバコの煙が「ト音記号」で模されたもので、内心、大丈夫かな？ と不安になった。

従来から浜松市は、音楽の街、楽器の町として世界中に知られており、音楽に関する様々なイベントが目白押しなので、関係者も多い。「タ

バコ煙ト音記号」を目の当たりにした、彼らの心中は如何なものだろう。決して素晴らしいデザインとは思わないはずだ。

間髪を入れず静岡新聞「ひろば」(9月23日掲載)「マナー灰皿の設置は理不尽、中日新聞「声」(9月28日掲載)「禁煙の時代に逆行する灰皿」として投稿した。驚くべきことに、10月11日付で前浜松市長からの紙面投稿「マナー灰皿で喫煙場所を制限」があつた。

当地2新聞の投稿は、思わぬ波紋を広げる羽目になった。一般的に市民の投稿に対し、市役所の担当部署が答えるものであるが、浜松市長自

らが登場するとは予想外であり、市幹部の苦渋が手に取るように伝わってきた。

市民の間にも、駅前設置された

マナー灰皿に、否応なく関心が集まり、中には「マナー灰皿とはどんなものだろう」と確認に出かけた人もいと聞く。すでに設置30日後には、

吸い殻やタバコ箱のみならず、ペットボトルや缶、ウイスキー瓶が散乱し、完全にゴミ箱化していた。公共空間に灰皿を設置した場合、短時間でゴミ箱化するのは多くの事例が示している。

板橋区メッセージボード
灰皿使用停止の快挙

JT(日本たばこ産業)工場のある浜松市には、相当のタバコ税収が収められている。当然ながら要請・要望だけでは撤去困難との認識があつた。諦めていた矢先、東京都板橋区私鉄沿線のメッセージボード付き灰皿(官民企画灰皿)が、住民からの物凄い苦情により、平成18年8月から使用停止に追いこまれた事実を知る(板橋区資源環境部環境保全課環境美化担当)。

知人によれば、この地域住民の健康意識はかなり高いとのこと。とにかく最初から民意が高いのである。これを浜松地区の地域住民に当てはめるには、どうすべきか思案した。すでに新聞投稿で正しい情報提供を



毎年「世界禁煙デー」には、浜松駅前街頭活動を行なっている仲間の皆さん。前列左から4人目が筆者。
(2013年当時)

Think globally, Act locally! 第2弾

済ませてあるので、外庄（浜松市民以外の声）を利用するしかないと確信した。

全国の禁煙策士に、板橋区の官民企画灰皿の事例やゴミ箱化したマナー灰皿の写真を転送し、浜松市のマナー灰皿担当部署まで、メールでの撤去要請を依頼した。

後日、市関係者が「どうして浜松駅前のことを遠方の人が知っているのでしょうか……驚くべき遠方から届いているそうです」と言っていた。しかしインターネット時代でもあり、情報はどこでも入手できる。浜松駅前の灰皿設置に危機感を持った人間が、行動しただけのことなのだが、関係者の混乱がうかがい知れた。

新市長誕生（鈴木康友市長）での船出

平成19年の浜松市長選で、鈴木康友氏が当選した。この4月から浜松市も政令指定都市になるので、これを見越して、静岡新聞「ひろば」欄（4月11日掲載）へ「政令市ならば

駅前禁煙徹底」と題して投稿した。この中で、政令市は県から数多くの権限が委譲されることを示し、首長は国会議員並みの見識を持ち、市議は県議以上の規範が、市役所職員は県庁職員並みの規律が要求されると伝えた。

また、浜松市には、音・かおり・光環境創造条例（平成17年6月1日浜松市条例第144号）があり、第5章「悪臭の少ない生活環境の保持」として、悪臭の防止を謳っている。

第9条では、市民は、廃棄物の焼却、飲食物の調理、自動車等の排出ガスその他の日常生活に伴って発生する臭いにより、近隣の生活環境を損なうことのないよう相互に配慮し合い、悪臭の少ない生活環境の保持に自ら努めなければならない、とある。

現代社会では、タバコによる環境汚染もそれに相当するのは明白だ。コンビニ前の灰皿は、店員によって定期的に維持管理がなされるが、公共空間のそれはメインテナンスが手薄なのは当然だ。

浜松駅前での世界禁煙デー

我々は毎年世界禁煙デーには駅前街頭活動を行なっている。平成22年の世界禁煙デー街頭活動で、浜松駅北口のマナー灰皿が撤去されていることに気付いた。いづごろ撤去されたのかは、今となっては分からないが、担当部署に様々な意見が届いたようである。恐らくマナー灰皿設置に関する異論・反論・激論が多かったのではないかと推察する。

往々にして行政は、喫煙者而非喫煙者の両方に配慮するものである。正論ではあるが尖った意見には、次第に耳を貸さなくなる。彼らは個人のパフォーマンズや虚栄心、功名心を黙殺することに長けている。

一方で、民意を大切にすることで、大勢の市民の声には理解を示すことが多い。問題は水面下でどうすれば民意が高揚するか、そのためには何をすべきかを熟考することだ。今回は分水嶺を見極めたことは何よりの収穫だった。その意味で、当地浜松

においてタバコ問題が熟考され世論形成ができたことが、何よりも大きい。今回の浜松駅北口のマナー灰皿撤去は、そうした大勢のアクションの積み重ねだろう。

実際に、浜松駅南口のマナー灰皿は、少しずつ位置をずらしていった。やがて簡易な仕切りで利用者を囲うことになる。これは完全に喫煙者を晒しものにしてに等しい。囲いがあれば覗いてみたくなるのが人の常である。かくして、多くの苦情が市当局に寄せられるようになった。平成25年3月に、浜松駅南口マナー灰皿撤去が紙面で報じられる。

これは浜松市民が、浜松マナー灰皿にダメ出しをした証拠であり、不良債権化させたことになる。100億円かけて喫煙所を準備しても、それが望まれるものなのかは、大勢が知っている。

今回、アプローチ如何で、民意の高揚につながることを学んだ。喫煙（Smoking）、2次喫煙（Second-hand smoking）、3次喫煙（Third-hand smoking）から考えれば、先

浜松マナー灰皿撤去が教えてくれたもの

進諸外国のように過去のモノにすべきただが、利権と既得権益が混在するわが国では至難の業だ。しかし、継続した要請や活動があったからこそ、マナー灰皿撤去の賛同者を増やしてくれた。

結局、浜松駅南北に設置された浜松マナー灰皿は、忽然と姿を消すことになる。目の前にポツンとたたずんでいる浜松マナー灰皿は、そのうちの何れかだろう。タバコ産業があるうが、多大な税金を納めようが、健康で健全な市民生活には無関係である。もともと浜松市民の喫煙率は静岡県下でも低い。公共電波を用いて視聴者を懐柔し、コンビニ店頭で、煌びやかな商品で誘惑することに、違和感があるのだ。

これはもうひとつの think globally act locally! とあるか。健康意識の高揚が、政令市浜松の健康寿命ナンバワンにつながっているのなら嬉しい限りである。